

瀋陽情報

中国東北最大都市・進化し続ける街

2011年10月号
Vol. 12

瀋陽市政府駐日本経貿代表処

105-0014 東京都港区芝2-13-4 住友不動産芝ビル4号館8階

http://www.shenyang-japan.com Mail:Shenyang.jp@gmail.com

目次

- 1 副総代表からの一言
- 2 投資動向
- 3 お知らせと報告
- 4 区および企業の紹介
- 5 ニュースクリッピング

1. 副総代表からの一言

今年是中国第12次5カ年計画の一年目であり、遼寧省でも瀋陽市でもインフラ建設、固定資産の投資に引き続き力を入れており、特に2013年に中国最大のスポーツイベント、「全国体育大会」が瀋陽で開催されるため、現在瀋陽ではインフラ建設が急ピッチで進められています。昨年の瀋陽地下鉄1号線の開通に続き、南北貫通の2号線も今年末開通する予定です。

瀋陽市1-9月のGDPの伸び率は16.6%増となり、引き続き2桁成長を維持し、瀋陽の経済は相変わらず活気にあふれています。昨年進出した積水ハウス、鹿島建設、LIXIL、日本精工などに続いて今年はフジクラ、三菱地所、三菱商事、三菱東京UFJ銀行などが瀋陽への進出を決めており、瀋陽市政府は一層日系企業との協力、コミュニケーションの強化を重視し、より良い投資環境の提供を対外開放の重点とし、すでに進出している日系企業がまず成功するよう最大限努力したいと思っております。

対日関係を益々促進するため、瀋陽のトップ、瀋陽市党委員会曾維書記長が来年4月、日本を訪問する予定で、古い友人を尋ねるほか多くの新しい友人に会い、日本企業が中国東北地区、瀋陽への関心を高めるようアピールします。

今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

副総代表 李 賢

2. 投資動向

* 北京恒基偉業電子製品有限公司、康平県と調印式挙行

7月4日、北京恒基偉業電子製品有限公司は康平県と調印式を挙行。20億人民元を投資し、800兆W太陽エネルギー電池板生産工場を建設することで合意。

* 瀋陽碧桂園 MariTim ホテル開業式挙行

7月9日、于洪区に瀋陽碧桂園 MariTim ホテルが開業式を挙行、市政协協商會議劉雅琴主席が参加。

* 長春亜泰集団、瀋陽現代建築産業パークの定礎式挙行

7月12日、長春亜泰集団が瀋陽現代建築産業パークの定礎式を瀋陽市瀋北新区で挙行。長春亜泰集団はPCボードを年間60万㎡生産する計画。

* 東北第一温泉城起工式挙行

7月16日、永盛七星九竜湾温泉、瀋陽市瀋北新区で起工式を挙行。永盛七星九竜湾温泉は東北地区で第一の温泉リゾート。

* 東北初、中外合作起業投資基金を契約

7月23日、瀋陽万潤新城投資管理有限公司と日本アジア投資株式会社が契約、「万亜（瀋陽）起業投資基金」を設立。

* 相模屋食料株式会社、瀋陽で工場を建設開始

相模屋食料株式会社は1000万ドルを投資し法庫県で豆腐製品加工場を建設。

* 營口港法庫内陸港の起工式挙行

8月2日、投資額10億人民元の營口港法庫内陸港の起工式が挙行。

* 瀋陽携帯電話産業パーク開幕式を挙行

8月4日、瀋陽携帯電話産業パークの開幕式が瀋陽市瀋北新区で挙行。携帯電話関連会社28社が進出し、生産量年間1億台の見込み。

* 香港五洲国際集団が于洪区と調印式举行

9月9日、香港五洲国際集団は于洪区と調印式を举行。100億人民元を投資し、敷地面積190万㎡の「瀋陽五洲国際工業博覧城」を建設することで合意。

* 永輝スーパー株式会社、于洪区と調印式举行

9月16日、中国ベスト500社である永輝スーパー株式会社は于洪区と調印式を举行。30億人民元を投資し「永輝東北物流貿易センター」の建設で合意。

* ドイツシャルトバウグループ（瀋陽）パーク、開幕式を举行

9月20日、ドイツシャルトバウグループ（瀋陽）パークが瀋陽地下鉄パークで開幕式を举行。5億人民元を投資し、地下鉄関連部品を生産。

* 上海 GM 自動車、新工場の定礎式举行

9月23日、総投資70億人民元、完成車年産30万台の上海 GE 自動車新工場の定礎式を瀋陽市大東区で举行。

3. お知らせと報告

瀋陽市は地下鉄線一年ずつ建設予定

9月27日、瀋陽地下鉄一号線開通1周年に際し、地下鉄二号線の試運転が開始。同時に一号線と二号線の延長線も建設中で、一号線開通以来、利用者は、年間6410万人、一日平均18.89万人、最高21万人に達した。

このほか、四号線、九号線、十号線を含め「瀋陽高速軌道交通建設企画(2011-2018)」が国家関連部門の審査を合格し、国务院の許可を待っている。計画によると、瀋陽市は地下鉄を一年に1本ずつ建設。2018年、地下鉄環状線を開通。

【今後のイベント】

- * 11月11～13日「2011年瀋陽中小型物件展示取引会・瀋陽市結婚用住宅展示即売会」（主催：不動産取引会組織委員会）＜瀋陽科学宮会議・展覧センター＞
概要：住宅購入需要がある新婚カップルがターゲットで、1980年1月1日以降に生まれた住宅購入予定の若者には無料入場券を配布。「新婚さん向け住宅」というキャッチフレーズで90㎡以下の中小型分譲住宅を主に展示。
- * 11月19日～21日「2011第14回中国フランチャイズチェーン加盟・起業フォーラム」（主催：瀋陽華博展示展覧有限公司）＜遼寧工業展覧館＞
出展商品：衣、食、住、商、アウトドア、水、工業、農業、林業、金融等
概要：瀋陽華博展示展覧有限公司が主催する「全国創業・創富博覧会」の一環として毎年瀋陽で開催。昨年は数百社が出展し、来場者数が数万人。
- * 2012年3月22日～24日「2012第18回東北・瀋陽国際建築装飾博覧会」＜遼寧工業展覧館＞
出展商品：装飾材料、省エネ壁材、ドア・窓、カーテンウォール、ガラス製品、暖房技術及び関連商品等
概要：展示会規模2万平米、出展者数500社、通常来場者数4万人
- * 2012年4月9日～11日「2012第15回中国東北国際金属工具展覧会」＜遼寧工業展覧館＞
出展商品：金属工具、機械設備、溶接切断設備、建築用並びに民用金属製品
概要：マーケット需要と瀋陽の地域特性に適応した東北地区最大規模の専門的展示会
- * 2012年4月23日～26日「2012第14回東北国際公共セキュリティ製品展示会」（主催：遼寧省社会公共セキュリティ製品協会等）＜遼寧工業展覧館＞
出展商品：映像監視・防犯システム、社会治安映像監視システム、インターネットセキュリティシステム及び防犯製品、偽者防止技術及び関連製品、ビルの防犯及びコミュニティスマートシステム

- *2012年4月24日～27日「2012第15回中国東北国際工業博覧会」（主催：瀋陽市装備製造業協会、北方工業商業展覧有限会社）＜遼寧工業展覧館＞
出展商品：オートメーション、メーター器具、工作機械、金型、プラスチック・ゴム機械、ベルトコンベア、溶接、冶金
概要：瀋陽を本拠地とする大規模工業企業である、瀋陽鼓風機集団、北方重工集団、瀋陽飛行機集団、瀋陽機床集団、瀋陽電機集団、黎明集団、三一重工集団等が積極的に参加。
- *2012年4月23日～26日「2012第13回中国プラスチック・ゴム機械工業展示会」＜瀋陽国際展示センター＞
出展商品：射出成形機や押出機の押出生産ライン、プラスチック包装加工機械
概要：プラスチック・ゴム機械関連の先進的な技術製品を展示し、東北地方全体のプラスチック・ゴム工業の発展を推進する
- *2012年4月24日～27日「2012第13回東北国際工作機械及び金属加工展示会」＜瀋陽国際展示センター＞
出展商品：金属切削機械、金属成形機械、特種加工機械及び専用設備、検査及び測量設備、NC装置等
概要：マーケット需要と瀋陽の地域特性に適応するために、1998年より毎年開催してきた本展示会は、既に中国北方地方において規模が最も大きく、歴史的にも長く、影響力が強い専門的な展示会。前回の展示会では、10カ国、国内20カ省と市から3319社の企業が出展し、来場者数が36万人に及んだ。
- *2012年4月24日～27日「2012第13回物流技術及び運送システム展示会」＜瀋陽国際展示センター＞
出展商品：倉庫設備、運搬設備、起重設備、輸送設備及び物流トータルシステム、包装設備、物流サービス等
概要：2012年の本展示会は、東北国際プラスチック・ゴム機械及び包装展示会、東北国際工程機械・建築機械展示会、東北電力電工及び新エネルギー技術設備展示会と同時開催。

【要人往来】

- *4月14日、積水ハウス代表団が曾維書記長、陳海波市長を訪問。みずほ銀行大門栄城大連支店長一行が瀋陽訪問。
- *4月15日、積水ハウスが瀋陽建築産業園にて瀋陽工場の起工式を挙。同時に関連7社が、瀋陽における工場設立の覚書に調印。
- *4月20日、イオングループ岡田元也社長が瀋陽を訪問し、NSK瀋陽工場等を視察。
- *4月26日、北川（瀋陽）工業機械製造有限公司が瀋陽経済技術開発区で起工式を挙。瀋陽市党委員会常務委員、瀋陽鉄西区党委員会書記長李継安、瀋陽市副市長呉聖漢が出席。
- *6月5日、日揮名誉主席、重久吉弘経営戦略会議議長訪問団が、瀋陽の老人ホーム施設を視察し、瀋陽市副市長祁鳴を表敬訪問。
- *6月13日、中央三井信託銀行 古沢熙一郎特別顧問一行9人が瀋陽市を訪問し、瀋陽ハイテク工業団地、瀋陽装備製造業開発区を視察。
- *6月16日、フジクラが、瀋北新区に工場を設立する覚書に調印。
- *7月5日、市全人代委員会趙長義主任は、トルコFIBAグループ董事会コソソ主席一行視察団と会談。
- *7月6日、陳海波市長は香港新華集團蔡冠深主席一行代表団と会見、瀋陽新華国際金融センタープロジェクトについて会談。市委員会常務委員、刑凱副市長も参加。
- *7月13日、曾維書記、市全人代委員会趙長義主任は、韓国ウィークに出席の韓国国会議員、前大国家党党首アンシヨウシユウ韓国政府代表団と会見し、馬占春秘書長も会見に参加。
曾維書記はドイツALBAグループSally Shaywitz会長と会見。

- *7月14日、王翔坤副市長は相模屋食料・代表取締役会長江原寛一と会見。
- *7月17日、市常務委員、顧春明常務副市長は豪州ニューサウスウェールズ州政府ダル・マック秘書長を代表とする州政府代表団と会見。
- *7月18日、祁鳴副市長はニチイ学館代表取締役会長寺田明彦一行代表団と会見。同団体は、第二回中国瀋陽高齢者、障害者用品展覧会に出席。瀋陽百貨協会姚維安会長も参加。
曾維書記は北朝鮮の池在竜駐中国大使と会見、北朝鮮の李基範駐瀋陽総領事と黄凱副市長も参加。
- *8月1日、陳海波市長は米国王晓岷駐中国大使館臨時大使代弁と会見、黄凱副市長も参加。
- *8月3日、市常務委員、刑凱副市長は（株）LIXIL 専務執行役員海外営業本部長山口進を代表とする視察団と会見。
- *8月1日－10日、瀋陽市政治協商会議劉雅琴主席を代表とする瀋陽市経済貿易代表団はロシアと韓国を訪問、友好と経済交流活動。
- *8月13日、市委員会常務委員、顧春明常務副市長は長崎市田上富久市長一行訪問団と会見、同団は、2011 中国瀋陽国際旅行祭に参加。
- *8月17日、市委員会常務委員、顧春明常務副市長はシンガポール Keppel 不動産集団洪偉義中国執行副主席一行訪問団と会見。シンガポール Keppel 不動産集団はシンガポール国内 NO.1 の国有企業で、2007 年 9 月から、瀋陽市に投資。
- *8月18日、曾維書記は積水ハウス（株）和田勇会長と会見、瀋陽での更なる事業展開について意見交換。鉄西区書記李継安と副市長楊亜洲も参加。
- *8月22日、市委員会常務委員、刑凱副市長はマカオ旅行娛樂有限公司陳偉総経理を代表する香港不動産建築業協進会訪問団と会見。
祁鳴副市長は北海道議・千葉英守議員を代表とする北海道飲食業代表団と会見。
- *9月5日－16日、曾維書記を代表とする瀋陽市経済貿易代表団はドイツ、スイスとフランス三国を訪問、友好経済交流活動。
- *9月7日、陳海波市長は日本精工（株）朝香聖一会長と会見、李松林副市長も参加。
9月15日、陳海波市長はアメリカ ESG 会社ダグラス・グリーン総裁を代表する代表団と会見、ESG 会社は瀋陽経済技術開発区で自動車部品生産工場を設立計画。
- *9月17日、陳海波市長は帝人（株）大八木成男社長を代表とする代表団と会見、楊亜洲副市長も参加。
9月22日、市全人代委員会趙長義主任は村山富市元総理大臣を代表とする訪問団と会見。同訪問団は、国際和平日記念活動および東北アジア発展フォーラムに出席。
- *9月23日、祁鳴副市長はロシアイルクーツク市ユーリ・ヴォルコフ副市長一行代表団と会見。同団は、国際和平日記念活動および東北アジア発展フォーラムに出席。（2012 年は瀋陽とロシアイルクーツク市は友好都市締結 20 周年）
- *9月27日、陳海波市長はイランの東アゼルバイジャン省アルマド・ラザビキ省長一行代表団と会見、黄凱副市長も参加。
- *9月29日、陳海波市長は米国 Textron グループの林明揚中国地区総裁を代表とする代表団と会見、楊亜洲副市長も参加。
Cessna 社はアメリカ Textron グループの子会社で、世界一番の民用航空機メーカー。このたび、瀋陽市と瀋陽飛行機集団、セスナジェットの三者が GE 航空産業チェーン戦略合作協議を調印。

4. 区の紹介

瀋北新区 (SHENBEI XINQU)

■瀋北新区の概況

瀋北新区は、面積 810 k m²、人口 42 万人で、2006 年 10 月国家国務院の承認により設立。国家級開発区の優遇政策が適用される。「瀋陽の北部でもう一つの生態都市“瀋陽”を構築する」という都市づくり戦略に基づいた「中心都市新都心、新興産業クラスター、現代的生態都市」を建設し、高度の開拓力、競争力、影響力、経済発展けん引力を備え持つ、人と自然が共存可能な第三世代新型都市を目指す。

瀋北新区内には遼河、蒲河が止まることなく流れ、輝山、帽山、七星山といった緑豊かな「国家級生態区」に認定された自然環境が豊富で、区内全域の水面積率 8%、緑化率 45%に達し、山と水が互いにその美しさを引き立て合う、まさに都市と自然がうまく調和した新区となっている。さらに 30 億トンの温泉資源にも恵まれている。

<交通>

◆道路：区内の道路は、外側が環状、内側が網状となっており、環状高速道路は、大連、撫順、本溪、鉄嶺、北京へと向かう各高速道路と接続。瀋北開発大道、蒲河大道、三環線、四環線、五環線、101 国道、102 国道、203 国道等の高等道路が区内に整備され、横九縦九の主幹道路網を形成。18 のバス路線も区内を貫通。

◆鉄道・地下鉄・ライトレール：鉄道が四通八達し、北京—ハルピン、瀋陽—大連、ハルピン—大連、長春—大連等多くの幹線鉄道が新区にて交差し、北京—瀋陽高速鉄道の瀋陽新北駅の建設も既に開始。鉄道専用線も 5 本建設され、そのうち 2 本は海陸一貫輸送における検査免除サービスが可能。

このほか、瀋陽地下鉄 2 号線、4 号線が新区に直通。ライトレール 11 号線、七星観光ライトレール、瀋陽—鉄嶺都市間鉄道も新区内を通っている。

<教育>

瀋北新区は、教育資源を集約した地域でもあり、遼寧大学、瀋陽航空航天大学、瀋陽師範大学、瀋陽工程学院等 8 校の大学からなる「瀋北大学城」は、合計 186 学科を開設し、多岐にわたる人材を育成。現在、常勤講師 5900 名余、学生 13.2 万人が在籍。また、遼寧交通専門学校、遼寧金融専門学校等 13 校の高級職業専門校からなる「遼寧職業教育城」は、124 学科を開設し、土木（道路橋梁）、金融、コンピュータ、自動車・修理などの専門的な人材を育成。現在、常勤講師 4000 名余、学生 5.7 万人が在籍。このほか、東北育才学校、瀋陽第二高等学校等 16 校の有名校からなる「名高校城」も集まり、「大学城」「職業教育城」とともに、高等教育、職業教育及び基礎教育にわたる教育体系が充実。区内の多くの科学研究所や、重点試験室、ドクター研究誘致組織は、人材と知的支援を提供している。

このように、創造することは瀋北新区発展において永遠のテーマとなっており、「瀋陽経済区」のリーディングモデルであり、「総合配套（総合的組合せ）」に重点を置いた多層的な発展を目指す、遼寧省唯一の総合・複合改革試験区でもある。2009 年に瀋陽市委員会、市政府が「市外では天津、唐山を学び、市内では瀋北を学べ」と全市民に呼びかけ、瀋北新区は既に東北地方で最も投資家に注目される地域となり、中国国内の「最も魅力的な 10 大都市」の一つと躍進。

■都市化の実現を目指す一城、二区

蒲河新城：企画面積 300 k m²で、優先的かつ重点的に開発を進め、新興産業、現代サービス業の発展を奨励。瀋北副都心（CBD）、蒲河生態知恵島は、区域の都市化、工業化を推進。現代的生態区を建設することにより、「瀋陽新都心」の中心エリアを目指している。

道義エリア：企画面積 185 k m²、10 k m²の瀋北副都心と周囲 60 k m²の核心区域を建設。

虎石台エリア：企画面積 24 k m²

生態知恵島エリア：企画面積 10 k m²

輝山エリア：企画面積 18 k m²

新城子現代農業経済区：企画面積 400 k m²、農業の現代化及び農村の都市化を推進し、都市・農村統合発展モデル区の構築を目指す。

新城子タウン：企画面積 16 k m²

清水台タウン：企画面積 7.3 k m²

興隆台タウン：企画面積 7.3 k m²

七星旅行経済区：企画面積 110 k m²、豊かな自然環境を中心とした観光スポットを重点的に発展させ、既に、七星山景勝地、七星湖景勝地、怪坂景勝地、森林公園景勝地からなる生態旅行経済区を形成。

■四大主導産業

第12次5カ年計画で、瀋北新区は「中心都市新都心、新興産業クラスター、現代的生態都市」建設の3大目標を基に、①農産物加工及びバイオ産業、②ハイテク及び新興産業、③商業貿易・旅行・サービス産業、④文化創意産業の四大産業を重要産業に設定。

1. 農産物加工及びバイオ産業：

食糧、乳製品、畜産品、果物・野菜の飲料、バイオ製品等の高度加工産業を発展させ、国内最大の農産物加工基地、農産物卸売センターを築いている7種類の奨励項目を設定

- ①食糧加工②乳製品加工③畜産品加工④果物・野菜（飲料）加工
- ⑤バイオ製品⑥栽培業⑦農業科学技術園区

2. ハイテク及び新興産業：

携帯電話、ハイエンド家電製品、新エネルギー、自動車部品、航空宇宙、知能化装備製造、ファインケミカル等の産業を発展させ、東北地方で最も重要で、国内においても影響力のあるハイテク及び新興産業基地の構築を目指し、7種類の奨励項目を設定

- ①携帯電話及び関連部品の製造・研究開発
- ②先端的エレクトロニクス製品の製造・研究開発
- ③新エネルギー産業④自動車・自動車部品の製造・研究開発
- ⑤航空宇宙産業⑥知能化装備製造産業⑦ファインケミカル産業

3. 文化創意産業：

アニメーション・ゲーム、ソフトウェア開発、デザインサービス、アートクリエーション、教育及びトレーニング等の産業を発展させ、中国北部において影響力のある文化創意産業基地の構築を目指し、5種類の奨励項目を設定

- ①アニメーション・ゲーム関連②ソフトウェア開発及び提供サービス
- ③デザイン④アートクリエーション⑤教育及びトレーニング関連

4. 商業貿易・旅行・サービス産業：

3種類の奨励項目を設定

- ①現代サービス業
- ②旅行・レジャー業
- ③金融業

■産業団地紹介

○瀋陽携帯電話産業園

企画面積 10 k m²、瀋陽ハイテク産業の重要園区であり、R&D、携帯電話製造、関連部品産業、物流・販売の4エリアを設置。産業園は、瀋陽のしっかりした科学教育の基礎や豊富な人材資源を武器に、携帯電話の製造、関連部品、ソフトウェア開発、チップ製造・生産を一体とする売上1000億円の携帯電話産業クラスターの構築を目指す。現在、POSTCOM、SIM Technology、愛国者（aigo）、中国位置産業園、モバイルインターネット処理プラットフォーム用チップ製造プロジェクト等数多くの関連企業が進出。今後5年以内の目標は、企業300社を誘致、累計投資420億元、年生産台数1億台、売上1000億元。

○農産物加工及び食品産業園（「国家級農産物加工基地」）

企画総面積 15 k m²、食糧、乳製品、畜産品、果物・野菜飲料、バイオ製品等を中心に発展。中糧グループ(COFCO)、南京雨潤、蒙牛乳業、伊利乳業、PEPSI コーラ、シンガポール益海嘉里（YihaiKerry）、燕京ビール、韓国CJ等数多くの有名企業が進出しており、中には世界トップ500企業6社、中国国内有名企業17社、国内有名ブランド24社、国家級農業産業化リーディングカンパニー19社が含まれている。

園区は、相次ぎ国家級農業科学技術園区、中国知名優良食品産業基地、国家級農産物加工示範基地等多くの表彰を受け、次のステップとして、園区は継続的に産業規模を拡大させ、国家級農産物加工基地及び農産物卸売センターの構築を目指す。

○ハイテク産業園

企画面積 47.4 k m²、LED、太陽光発電、レーザー装備製造、家電製造、電力設備、精密機器製造の6大産業区より構成。LCD、LED、ソーラー、レーザー、光ファイバー伝送設備、電力設備、検査計測設備、監視測定設備、電子計器、知能型家電及び部品製造、R&D、検査計測等に関するプロジェクトを誘致。ハイアール、蘇泊尔集団、美的（Midea）等多くの有名家電メーカーが進出。

○航空宇宙産業園（航空城）

企画面積 32.2 k m²、瀋陽飛行機工業グループの瀋北新区への移転を契機に、瀋陽航空航天大学等の科学研究所が多数新区内に存在するため、軍用機、民用機、大型部品の製造及び完成機の整備、さらにR&Dセンター、物流センター等関連施設のビジネス飛行センター（応急救援基地）等のプロジェクトを誘致。既に瀋陽飛行機工業グループ、国泰航空、上海航發機械有限公司、西子航空、瀋陽飛行機倉庫物流センター等のプロジェクトが進出。

○中国・シンガポール国際城

企画面積 10 k m²、瀋陽新都市、生態新城の中心地。南北に通る幅400メートル大街道をメインに、交通中枢エリア、公共文化エリア、金融商業・貿易、行政サービスエリアに分かれ、「歓楽の谷、成長の山」を形成。

北部：瀋北新区の最大駅・瀋陽新北駅を通る北京-瀋陽高速鉄道、地下鉄2号線、都市間鉄道、四環快速道路の四線路を基に「新都心」の交通中枢区域を構築する。

中部：本年オープンした瀋陽華強による中国版ディズニーランドをはじめ、クールベッラ文化基地（体験型教育産業）を活用し、少年パレス、コンサートホール、展示ホール、アメリカプロバスケットリーグ（NBA）用試合ホール等文化レジャー施設の建設を計画しており、「新都心」の公共文化エリアを整備。

南部：企業のヘッドオフィスや行政のオフィス、ホテル、商業・金融サービスなどのプロジェクトを計画しており、区のランドマークとして、金融・商業・貿易及び行政サービスを充実させる。

○レジャー・旅行環状ゾーン

蒲河新城エンターテイメントエリアでは、香港のデベロッパーによる「東北地方ナンバーワン温泉城」の開発を進め、また七星山、錫伯族文化、七星湖湿地、怪坂風景区域、国家森林パーク等を基にした七星旅行経済エリアでは、「自然、環境、体験」を一体とする瀋北旅行産業を開発。

■観光情報

○中国版ディズニーランド「Fanta Wild Adventure」

敷地面積 50 万㎡、総投資額 20 億人民元、東北地方初の第四世代型テーマパーク「Fanta Wild Adventure」が本年 9 月 30 日に開園。同園は、完全な自主知的財産権を有するテーマパークで、園内には 300 余りのアトラクションがあり、年間集客数 300 万人を予定。開園以来、連日、2 万人程度の来場客で賑わっている。

○瀋北新区ラベンダー園

本年 8 月 1 日、瀋北新区ラベンダー園が開園。およそサッカースタジアム 150 個分に相当する敷地一面にラベンダーが植えられ、開園以来、大勢の来園客で賑わい、すでに瀋陽の新しい観光名所になっている。

○瀋陽怪坂東北虎動物園

9 月 28 日、瀋陽怪坂東北虎動物園が開園。園内には現在、東北虎 102 匹、ホワイトタイガー 2 匹、ベンガルトラ 2 匹、アメリカントラ 2 匹、ライガー 1 匹が飼育され、開園以来、連日、1.5 万人の来場客で賑わっている。

■最近の注目情報

三菱地所のアウトレット事業「瀋陽尚柏奥萊」プロジェクト

三菱地所が、海外初の商業施設として開発を進めている『瀋陽尚柏奥萊（日本語名：瀋陽パークアウトレット）』は、瀋陽市中心部から北へ 25km の市内でも重点開発エリアである「瀋北新区」に位置し、計画地周辺では高速鉄道の新駅を始めとするインフラの整備に合わせて、大規模なオフィス、住宅はじめテーマパークやアリーナ、コンベンションセンターなどが急速に開発されている。店舗面積約 14,400 坪、店舗数約 160 店（第一期）の中国東北地方初かつ最大の本格的アウトレット施設で、アウトレット店舗を中心に、エンターテイメント性も加え、建築的にはトップライトを多用したインナーモール部分と開放的な「広場」で構成。第一期オープンは、2012 年春を予定。三菱地所は、香港・シンフォニーホールディングス社等とで設立した J V「瀋陽奥特莱斯房地產開發有限公司」に 30%を出資。

外国総領事館の移転

遼寧省、瀋陽市政府の承認により、市中心部にある外国総領事館を瀋北新区に移設することが決定。これにあわせ、瀋北新区は既存の 6 カ国領事館と、新設予定の 3 カ国領事館を受け入れるため、国際領事館エリアの建設準備を開始。さらに今後を見据えて、11 カ国分の予備スペースも同時に開発する予定。これに伴い、国際コミュニティの建設を計画しており、領事館の各国駐在員が、まるで本国で本場の味を堪能できるようなレストラン等の環境作りを目指し、各国の外食産業を積極的に誘致していく。

※既存の 6 カ国領事館：アメリカ、日本、ロシア、フランス、韓国、北朝鮮
新設予定の 3 カ国領事館：ドイツ、イギリス、カナダ

5. ニュースクリッピング

佐賀県瀋陽事務所 10月26日に開設

佐賀県は、中国遼寧省の省都瀋陽市に開設する初めての海外事務所「佐賀県瀋陽代表事務所」を開設。現地を訪れた古川康知事はパートナーシップ協定に調印し、同省の王珉・党書記と会談した。今後、経済や観光をはじめ、科学技術、文化、教育などの分野で交流を進める。県国際戦略グループの男性係長1人が配属されるほか、現地スタッフ1人の2名体制でスタートする。事務所は、同市和平区南京北街の「瀋陽城市広場第1タワー」19階に設置する。

前日にはシェラトン瀋陽麗都ホテルで、開設記念セレモニーを実施。県内からは古川康知事のほか、県議や経済団体関係者らが出席し日中合わせて300人が出席。

三菱地所 海外初、瀋陽市で商業施設開発

三菱地所は10月20日、瀋陽市で開発中の「瀋陽パークアウトレット」の概要を発表した。海外で初の商業施設開発となる。店舗面積約1万4400坪、店舗数約160店(第1期)で、中国東北地方で最大の本格アウトレット施設。トップライトを多用したインナーモール部分と、開放的な「広場」を組み合わせた構成で、第1期は2012年春にオープンする予定だ。

三菱商事、瀋陽市で分譲住宅開発に参画

三菱商事は10月、瀋陽市の大規模分譲住宅開発事業に参画すると発表。中国の大手デベロッパー金地集団（深セン市）と合併で設立した現地のプロジェクト会社に約50億円を出資。非常勤役員、常駐社員それぞれ2人を派遣。経済成長に伴う人口増と都市化により伸びる住宅需要を取り込む。瀋陽市の開発事業は総事業費約600億円で、敷地面積約20万㎡の土地に分譲住宅約4000戸、店舗を約2万8500㎡開発する。11月に第1期分の販売が始まる予定。

三菱商事は中国を戦略地域に位置付け、商業施設運営など不動産事業を推進。金地集団とは10年6月に中国での不動産事業で戦略提携の覚書を結んでいる。

JINS、上海に子会社設立

めがね専門店のジェイアイエヌは10月7日、中国・上海に子会社を設立すると発表。12月に設立予定で、資本金は70万米ドルで100%出資する。代表者には、中村豊専務が就任する。中国へ進出は昨年10月に瀋陽市に子会社をすでに設立し、瀋陽市内2店、天津市内1店を運営している。ビジネスモデルの確立に一定の成果を確認できたことから、今後の本格的な出店拡大に備え、その拠点として上海に新会社を設立するもの。

JINS、瀋陽市のショッピングモールに出店

ジェイアイエヌは8月20日、中国瀋陽市のショッピングモール大悦城（JOYCITY）に、アイウェアショップ「JINS 瀋陽大悦城店」をオープン。消費地としても成長著しい瀋陽で2店目、海外3店目の出店。JINSとしては初めて中国企業が開発・運営する大型商業施設への出店となる。日本で培った独自のノウハウを活用し、399円、599円、799円の3つの価格帯において、レンズ代・メガネケース・メガネ拭きをすべて含んだオールインワンプライスで販売する。

中国南方航空の瀋陽～大阪便、1日1往復に増便

中国南方航空は10月30日から、瀋陽と大阪を結ぶ便数を週3便から1日1便に増便。またハルビン経由を直行便に変更。往路の便名はC Z 631 からC Z 611 になり北京時間8:50に瀋陽を出発し、日本時間12:10大阪到着。帰路の便名はC Z 632 からC Z 612 になり、日本時間13:10に大阪発、北京時間14:40瀋陽到着。片道の所有時間は約2時20分間。同社北方支社はこのほか、東京、福岡、名古屋の直行便を運航。

また、南方航空は11月より、瀋陽～台北便を現状の2便から、毎週月曜、木曜、土曜の3便に増便。瀋陽～台北路線はすべてA321型機を使い。往路はC Z 3011便、15時に瀋陽桃仙空港を出発、17時50分に台北桃園空港に到着。帰路はC Z 3012便、18時50分台北空港発、21時40分瀋陽到着で、これらはすべて直行便。2009年8月31日に瀋陽と台北を結ぶ定期直行便を正式に開設した南方航空は、台北向けの直行便を就航する本土初の航空会社となった。

南方航空のほか、深セン航空は11年7月に瀋陽～台北の直行便を毎週水曜日の1便就航している。南方航空の3便を加えれば、本土の航空会社が運航する本土と台湾を結ぶ便は毎週4便に達する。

華晨中国がエンジン子会社を売却、バス・トラックへ転換鮮明に

2011年10月19日までに、華晨中国は所有する子会社・瀋陽晨発の75%の株式を6000万円で売却すると発表。売却後の持ち株比率は25%で、売却益の約5960万円は事業資金に充てるといふ。同社は小型バスおよびBMW事業に重点を置く方針を明らかにしており、今回の株式売却も戦略の一部と見られる。瀋陽晨発はエンジンなどの自動車部品の開発・生産・販売などを手がけている。

DBシェンカー、ドイツ～瀋陽間の鉄道貨物輸送を開始

欧州最大の物流会社であるDBシェンカーによると、40のコンテナを搭載する貨物列車が9月末にライプツィヒのワレンコンテナ・デポを出発し、3週間・1万1000キロの道程を経て、中国東北工業都市の瀋陽に到着。自動車部品を満載し、瀋陽のBMW工場に向かう4本目のコンテナ貨物列車となる。11月下旬からは、シベリア鉄道を通じて毎日運行される予定。輸送日数は23日間で、海陸連絡輸送より2倍以上の時間を節約できる。同貨物路線は、ポーランド、ベラルーシ、ロシアを経由し、中国東北に到達する。DBシェンカーは関係国の鉄道会社と連携して列車の運行事情を見守る。

GMの中国合併、新工場建設へ

GMの中国合併、上海通用（瀋陽）北盛は9月23日、瀋陽市において、新工場建設の起工式を行った。上海通用（瀋陽）北盛は、2004年に設立。上海GMが50%、GMチャイナと上海汽車（SAIC）が、それぞれ25%ずつを出資し、ビュイックブランドのミニバン、『GL8』やシボレーブランドの小型セダン、『クルーズ』を生産している。

今回起工式を行った新工場は、瀋陽市に建設。70億元（約840億円）を投資し、2014年に稼働する予定で、年間30万台の完成車と45万基のエンジンを生産する。完成車は、上海GMを通じて販売される計画だ。

新工場は、敷地面積が約2平方km。プレス加工から塗装、組み立てまでの各工程を備える一貫工場となる。完成すれば、中国北東部における乗用車の工場としては、最大規模となる。GMチャイナのケビン・ウェール社長は、「新工場はGMの中国5か年計画において、重要な役割を担う」と述べている。

佐世保市と瀋陽市が市民交流へ覚書締結

佐世保市と友好交流都市関係にある瀋陽市の人民政府代表団が9月、佐世保市を訪れ、来春計画されているチャーター機による市民訪問団の相互派遣について、同市と覚書を締結した。職員の相互派遣も今後検討する。

両市は5月末、観光、経済、教育など幅広い分野で交流を深めることなどを目的に友好交流都市協定を締結。今回の相互派遣計画では来年3月、瀋陽空港－長崎空港間を2往復運航。両市から視察団や市民ら各100人規模の訪問団を派遣し、市民レベルでの交流促進を図る。佐世保市のハウステンボス（HTB）であった覚書締結式には、瀋陽市の顧春明人民政府常務副市長ら11人と、佐世保市の朝長則男市長ら10人が出席。朝長市長は「両市の新たな交流を期待するとともに、将来は職員の派遣も検討したい」と提案。顧副市長も「観光交流を含め、職員派遣もぜひ考えたい」と応じた。

川崎市、姉妹都市との交流を推進、瀋陽市提携30周年で覚書

川崎市と瀋陽市は5月川崎市役所で、姉妹都市提携30周年を記念し、今後の交流と協力に向けた覚書の調印式を行った。瀋陽市の陳海波市長ら代表団13人が川崎市役所を訪問。川崎市の阿部孝夫市長は「持てる資源を出し合い、相互の経済発展や地球規模での課題解決につなげていきましょう」とあいさつ。陳市長は、エコタウンづくりに向けて、公害克服の過程で蓄積してきた川崎の環境技術の重要性などを強調。「この場を新しいスタートにして、中日両国における地方自治体の交流の成功を築き上げたい」と述べた。両市は1981年8月に姉妹都市提携を結び、経済や環境、文化、スポーツなどで交流。研修生の受け入れやビジネスマッチングなどによって、技術移転や協力関係を築いてきた。調印式では、環境問題など地球規模での課題に対して積極的に協力していくほか、教育面で児童・生徒、教職員の人的交流を検討していくことを確認した。

日中ロボット戦…緊迫の展開も日本が5対3で勝利

瀋陽市で9月1日に、中国国際装備製造業博覧会が開催。会場では、川崎市との「日中（日中）ロボット大戦」のアトラクションが披露された。緊迫する場面も多かったが、日本が5対3で勝利を収めた。中国新聞社が報じた。川崎市から訪れた大学生チームと瀋陽市内の大学生が対戦した。リモコンで相手のロボットを押し出すなどのルールで勝敗を決めた。博覧会主催者は、ロボットの競技を通じて、「青少年に『ものづくり』の分野に対する理解と興味意を高めてほしい。製造業とハイテク産業の発展に貢献してほしい」と述べた。

瀋陽で中日韓（遼寧）中小企業相対商談会

遼寧省中小企業庁主催、中日韓関係部門協賛による「中日韓（遼寧）中小企業相対商談会」が8月末、瀋陽市遼寧大廈で開催。中日韓3カ国の政府部門、領事部門、企業、金融機関、中小企業サービス機関の代表300人近くが会議に出席。

中小企業の発展を妨げている問題を効果的に解決し、プロジェクト、技術、資本、貿易分野における遼寧省の中小企業と日韓中小企業の交流と協力を促し、中小企業サービス機関同士の協力と交流を強化し、地域経済の成長を促すことが開催の目的。

会期中、安川電機や韓国の盛世農産など日韓の50あまりの企業と遼寧省の100近い企業が設備製造、冶金、化学工業、電子情報、農産物加工などの分野で商談を進め、またみずほ銀行、三井住友銀行、韓国産業銀行など外資系銀行6行が金融サービスについて説明。投融资プロジェクトについて遼寧省の企業と商談。「中小企業サービスシステム・フォーラム」なども開催。

2010年の日本の遼寧省における投資は120億9200万ドル、韓国は106億9600万ドル。日本は遼寧省第2位の外資利用国、韓国は第3位の外資利用国で、日本は遼寧省第1位の貿易相手、韓国は第2位の貿易相手でもある。

日本アジア投資、瀋陽に投資ファンド－日系企業の進出支援

日本アジア投資はこのほど、瀋陽市にある瀋陽万潤新城投資管理と共同で、中国ビジネスの拡大を志向する日本企業や事業拡大を目指す中国企業に投資する「万亜（瀋陽）創業投資基金」を設立。

設立当初の基金規模は3億人民元（約36億円）。日本アジア投資は2010年12月に瀋陽市人民政府と業務協力協定を締結。また今年4月に上海、北京に次ぐ“第3の拠点”として瀋陽支店を開設し、中国東北地域での営業展開を強化しており、こうしたことなどが、今回の投資基金の共同設立につながった。瀋陽市は遼寧省の省都で、中国・東北部の経済の中心として成長を続けている。鉄道、高速道路に加え、空港や港湾などのインフラも整備されており、交通の要衝として高い利便性がある。大学や研究施設などもあり、技術系人材の供給力が高いという。

BMW、中国への投資額を約2倍に引き上げ 生産拡大へ

BMWは、中国での生産能力の増強投資を当初計画の2倍近い10億ユーロに引き上げると発表。同社は2009年に5億6千万ユーロを投じ、中国で年10万台の生産体制を敷く計画をまとめていた。現地での販売が好調なため、投資拡大で長期的に年30万台まで生産できるようにする。増産投資は中国での合併相手である華晨汽車と分担する。両社は12年に第2工場を稼働させ、小型多目的スポーツ車（SUV）の「X1」などを生産する予定。投資の増額分を、主に第2工場の塗装やボディー加工など生産設備の増強に充てるとしている。BMWの中国での新車販売は、11年1～4月で前年同期比7割増の7万9千台と大幅に伸びている。

個人向け中心に オーリッド、事業集約

文字情報のデジタルデータ化システムを運用するIT企業オーリッド（本社・別府市）は、法人向けと個人向けの両事業を分離し、個人向けサービスを中心に事業を拡大する。これまで中核事業だった法人向けのシステムと関連子会社はNTTデータに売却した。個人向けは昨年7月にシンガポールで、同10月から日本国内での提供を始めた。「オーリッド・カイバー」の名称で、手書きの書類や名刺などの文字情報をインターネットでデジタルデータに自動変換。ビジネスマンがデータ入力作業にかかる時間を縮減できるとしている。三浦雅弘社長は「もともと（専門知識を駆使して働く）ナレッジワーカーの支援が創業時からの理念。カイバーの売り上げは今年15～16億円、来年は50億円に成長が見込める」とし、通信大手や文具メーカーと連携して新商品・サービスの開発を進めるという。オーリッドは中国・瀋陽市に新たなデータ入力センターを設立するほか、場所を問わず携帯端末などで入力作業をするユビキタスオペレーターを増やす方針。売却した子会社はオーリッドビズ（大分市）と瀋陽市の現地法人。これまでNTTデータと提携して生命保険各社などからデータ入力を請け負っていたが、コスト高になっていた。売却額は27億5千万円。

遼寧省沿海経済帯に現代サービス業モデル地区

中国財政部の張少春・副部長はこのほど、遼寧省の瀋陽、鞍山、営口の「沿海経済帯」地区を今年中に、現代サービス業の総合テスト地区に指定し、活動を本格化させる方針を明らかにした。同部のほか国家発展改革委員会などとともに検討を行う。遼寧省の「沿海経済帯」のほか、北京の「中関村国家自主创新示範区」も同様の指定を受けた。テスト地区では、中央政府と地方政府が振興方法を協議した上、集中的に政策を立案し資金を集めて、重点的な支援を行うことで、現代サービス業の飛躍的な成長を実現する。

瀋陽市で二つの複合開発に着手、東京建物

東京建物は、瀋陽市で、二つの複合開発に着手。いずれも分譲マンションと商業施設、オフィスの複合開発で、中国の大手不動産会社の万科グループと業務提携しており、今回の計画は万科グループ傘下の瀋陽万科房地產開發有限公司、京阪電気鉄道との共同プロジェクトとなる。今回着手したのは明天広場プロジェクト（仮称）と春河プロジェクト（仮称）で、明天広場プロジェクトの建設地は、瀋陽市の南部、渾南新区にある。2012年完成予定の地下鉄2号線世紀広場駅に近く、完成後は駅に直結する予定。約20万m²の土地に、分譲マンション約45万m²（約4600戸）、商業スペース約10万m²、オフィススペース約4万m²を整備する。春河プロジェクト（仮称）の建設地は政治、商業、文化施設が集まる瀋河区の青年公園エリアにある。敷地面積は約8万m²。分譲マンション約33万m²（約2700戸）、商業スペース約4万m²、オフィススペース約5万m²の規模となる。

オムロン、中国でFA機器のCSC9拠点に－内陸部をカバー

オムロンは2012年夏までに中国で工場自動化機器のカスタマーサービスセンターを現在の3拠点から9拠点に増やし、スタッフ数を現在比最大3割に増員。10月に瀋陽、成都に新設し、内陸部などの空白地域をカバーする。中国のFA市場は急速に拡大しており、欧州系や日系などメーカー間の競争が激化している。アフターサービス体制を充実させて競争と差別化を図る。中国・台湾地域でのFA機器の売上高は11年3月期に約390億円だった。今期に2ケタ成長を見込む。

安川電機 第二工場の建設着手、増産へ

安川電機は8月、瀋陽市の工作機械用モーターとアンプの瀋陽工場に新工場を建設、来夏の新工場稼働時点での同工場全体の生産能力を今年末の2.5倍に引き上げると発表。瀋陽での総投資額は当初計画の50億円が70億円に膨らむ。中国の設備機械産業からの需要増に対応、現地の生産体制を強化し、2013年度に瀋陽工場だけで300億円の売上高を目指す。

同社は、現地子会社の「安川電機（瀋陽）有限公司」を設立し、2010年6月に瀋陽工場を稼働。中国では上海、北京に次ぐ3カ所目の生産拠点で、高精度の工作機械などに使用されるサーボモーターのほか、モーターを制御するサーボアンプを製造している。今回の設備投資で建設される第2工場は、床面積1万平方メートルで、来夏に稼働する。第1工場も年末までに生産ラインを増やす。第1工場は日本で製造した部品を組み立てるだけだが、第2工場は部品調達から加工まで現地で行う能力を持たせる。

東芝ソリューションと東軟集団、中国で合併会社を設立

東芝ソリューション（河井信三社長）と中国の東軟集団は、中国市場でITソリューション事業を展開する合併会社「瀋陽東芝東軟情報システム社（東芝東軟情報システム）」を設立した。資本金は350万ドル（2億8350万円）で東芝ソリューションが6割、東軟集団が4割をそれぞれ出資した。社長に当たる総経理には東芝ソリューション元常務の藪内正彦氏が就任した。従業員は14人（非常勤含む）で、順次増員する。

東芝ソリューションと東軟集団は15年以上にわたって、オフショア開発事業で連携しており、相互理解を踏まえた信頼関係を築き上げてきた。合併会社の東芝東軟情報システムは、東軟集団の本社所在地・遼寧省瀋陽にオフィスを構え、中国全土において、中国政府と各省、自治体、日系企業の現地法人向けに、SIサービスやBPO・クラウドサービスを提供していく。

中国全土をカバーする約40か所のサービス・サポート拠点を通じて、中日両国で実績のあるITソリューションを、コンサルティングからアフターサポートまで一貫して提供する。

中国で介護老人ホーム運営 ウィズネットが受託へ

介護福祉サービスのウィズネット（さいたま市、高橋行憲社長）は中国で現地当局から介護付き有料老人ホームの運営受託をする方針。1000人が入居できるように内装を整え、2012年4月に開設する計画。中国でも急速な高齢化が見込まれ、高齢者向け施設の需要が拡大する見通し。現地にはまだ普及していない介護設備を導入して需要を取り込む。

日本の住宅メーカーと共同出資して年内にも、現地に運営会社を設立し、瀋陽市の現地当局と受託契約を結ぶ方向で調整している。現地当局が建設した20階建ての建物3棟に、6500万元（約7億8000万円）を投じて内装や設備を整える計画。

寝たきりの人が横になったまま入浴できる機械や電動ベッドなど、日本式の介護設備を導入する。現地では一般的ではないという紙おむつを用いるなど、衛生管理を徹底する。

介護付き120部屋と自立者向け200部屋の個室のほか、2人用や4人用の相部屋も設け、合計で1000人が入居できるようにする。現地政府が近隣にクリニックなども整備する計画という。介護士300人は現地で採用。中国語の介護マニュアルを使った研修の後に業務にあたってもらう。3交代の24時間体制で介護サービスを提供する。

韓国SKグループが中国でレンタカー事業

韓国SKグループ傘下のSKネットワークスは、中国でレンタカー事業を本格始動したと、7月千竜網が伝えた。北京・杭州・瀋陽などの大中9都市で展開し、同事業を運営する法人「SK(中国)汽車租賃有限公司」を10月に設立。北京現代の「アゼラ」「NFソナタ」などのセダン、ゼネラル・モーターズ(GM)の「ビュイック・GL8ファーストランド」、起亜の「カーニバル」などの商用車のほか、大型バスやスポーツ多目的車(SUV)を扱い、保有車両は約1200台。年内に2000台に増やす計画。SKグループの中国本部機能となるSKチャイナの幹部は、レンタカー業が中国事業における新たな支柱産業になるとの見通しを示した上で、2015年までに車両数を2万台に増やし、上海や成都などに進出する計画を明らかにした。中国のレンタカー業のトップブランドになることを目指す。

ハイブリッド路線バス今秋投入、30%省エネ実現—瀋陽市

瀋陽市で生産されるハイブリッドバスが今秋ラインオフし、同市の路線バスとして導入される見通し。バスを生産する瀋陽五州龍新能源汽车有限公司企業発展部の張耀民經理によると「省エネ率 30%」がハイブリッドバスの最大の利点で、二酸化炭素も大幅に削減できる。同社は昨年 4 月、瀋北新区道義地区で工場建設に着手し、今年秋に完成予定。年産台数は 1 万台を見込み、第 2 期工事が完成すれば、年産台数は 2 万台に拡大。ハイブリッドバスは、一般バスと外観上の差はないが、発進時の振動や騒音がより少ない。フルコンピュータ制御のノークラッチ車で、バックビューモニターも装備され、同社では非常に運転しやすいと説明している。

また、バスの最大のメリットは省エネで、省エネ率は平均 30%。電気モーターとガソリンエンジンの自動切替システムで走る。電池は、一度フル充電すると、280 キロから 300 キロの走行が可能で、路線バスとして投入した場合は、電池のみで 2、3 日運行できる。一方、ハイブリッドバスは価格も 80 万元以上と、一般バス（30～40 万円）に比べ 2 倍以上の開きがあるが、瀋陽市が「国家省エネルギー・新エネルギー自動車モデル推進試行都市」に指定されたため、新エネルギー車を導入すると、国家の補助の対象となる。

工作機械のイワシタ、鉄道車両向け中国拡販 現地事務所も検討

工作機械のイワシタ（福井市）は、中国の販路を拡大する。アルミ製の鉄道車両の骨格部材などを加工できる製品を今秋から本格的に売り込み、サービス拠点を兼ねた現地事務所の新設を検討。車両を新たに調達する需要が見込めると判断した。すでに出荷している半導体分野の加工機を含め、中国を中心とした海外向けの売上高の比率を徐々に高める。中国の鉄道車両メーカーを中心に売り込むのは長尺 NC 加工機。高い精度でアルミの板を削って、最大 8 メートルまでの部材を加工できる。価格は 1500 万～5000 万円。国内の鉄道部品メーカーにすでに納入実績がある。

狙うは中国東北部 石川県の製造業

石川県の製造各社が、経済発展や工業化が進む中国東北部への進出をうかがっている。石川県鉄工機電協会は 7 月 10 日から遼寧省の大連と瀋陽に訪問団を派遣。会長企業の澁谷工業（金沢市）は近く、独自に大連へ営業員を送り込んで市場調査を進め、大連を足掛かりに東北部の販路拡大を狙う。澁谷工業は昨年上海に駐在員事務所を開設している。澁谷弘利社長は「中国でボトリングの引き合いが拡大している。大連でも市場開拓を進めていきたい」としている。石川県鉄工機電協会の訪問団 20 人は 5 日間の日程で、鑄造や鋳山用機械、自動車関連などを手掛ける「北方重工」、クレーン車や舗装車を製造する「瀋陽北方交通重工」など国営の大企業を中心に視察する。大連でも企業視察し、工場立地や現地企業との業務提携の可能性を探る。同協会によると、大連には会員企業 4 社が製造拠点などを設けているが、瀋陽への進出はまだなく、視察先としてのニーズが大きかったという。

JHTがHISと業務提携 訪日ツアー共同で販売

中国からの訪日ツアーで定評のあるジャパンホリデートラベル（JHT、呉焯康社長）がエイチ・アイ・エス（HIS、平林朗社長）と業務提携した。具体的な提携事業は、(1)中国・台湾・香港・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシアからの訪日ツアーに関する両社共同の「セールス」「手配・あつ旋の新たな体制づくり」(2)豪華客船クルーズより受注したシェアエクスカーションやオーバーランドツアーの共同あつ旋(3)両社オペレーションスタッフの相互交流による合同手配(4)取扱人数増加による他社競合に打ち勝つ企画・仕入れ体制の構築(5)各拠点でのHISの販売力を生かした相互間チャーターを行うとしている。またJHTの新しい取り組みとして、3月に九州・沖縄エリアの市場拡大を図る福岡事務所、中国国内の7つ目の拠点として遼寧省・瀋陽に事務所を開設したことを紹介。瀋陽事務所は黒龍江・吉林・遼寧の東北3省の営業拠点として東北エリアからの誘客を強化する考えだ。

カナダ社、中国でサーモン養殖場増設

カナダの魚養殖大手アグリマリンは、遼寧省本溪市にサーモンの養殖場を2カ所増設すると発表し、同市とこのほど契約書に調印。アグリマリンは既に同市の関門山貯水池に大型養殖場を開設しており、ふ化場や加工設備を共有する。アグリマリンは環境への負荷が少ないエコ養殖場を掲げており、海水、淡水、熱帯地、寒冷地など様々な場所に設置できるという。中国ではノルウェーに拠点を置くノーベル賞選考委員会が2010年に、中国の民主活動家、劉曉波氏にノーベル平和賞を授与して以来、ノルウェー産のサーモン輸入が激減した。アグリマリンの増設にはこうした背景もありそうだ。

中国のアムールトラ、初の大規模移送

9月19日から20日にかけて、53頭のアムールトラが、中国黒竜江省のアムールトラ林から遼寧省瀋陽怪坡（不思議な坂道）観光地に移送。今回、中国では初めての大規模な移送となり、すでに移送された47頭のアムールトラも含め、瀋陽怪坡観光地では黒竜江からのアムールトラが100頭に達している。アムールトラは9月29日から観光客に一般公開。また、アムールトラのほかには、瀋陽怪坡観光地には黒いトラ、ホワイトタイガー、ベンガルトラ、ライガー、ホワイトライオンなど20頭以上の珍しいネコ科動物が飼育されている。1970年代、アムールトラは世界保護生物種類白書に入り、1996年には、中国で黒竜江アムールトラ林が設立され、アムールトラの保護や科学研究、野生化の訓練に使用されている。

国内最大のラベンダー公園（紫烟薰衣草庄園）オープン

7月31日、中国国内最大のラベンダー畑を有する公園が瀋陽市で開園した。ラベンダー公園は敷地面積が5000ムー（1ムーは約666.7平方メートル）余りで、観賞用ラベンダーが大規模に植えられているほかにも、馬鞭草や観賞用ひまわり、孔雀草、クマツヅラ、ローズマリー、コスモスなど数十種類のハーブや草花を楽しむことができる。

ニュースレターの登録・配信停止について

* 本ニュースレターは無料でご購読いただけます。購読または配信停止を希望される方は、電話またはメールにて弊社代表処までご連絡ください。

瀋陽市政府駐日本経貿代表処
〒105-0014

東京都港区芝2-13-4

住友不動産芝ビル4号館8階

電話番号:03-3798-3312

FAX 番号:03-3798-3313

メール: shenyang.jp@gmail.com